

リレバン・レポート'12

～ 連携強化によるさらなるリレバンの推進へ ～

<p>調査概要</p>	<p>リレバンの効率的な推進方策の提示を目的として平成20年度から実施(今回が5回目)。今年度は金融機関向けアンケートを実施(4年ぶり)し、中小企業と金融機関双方の意識ギャップの調査のほか、中小企業におけるコンサル関連に対するニーズや情報入手・相談先等の把握など新たな視点による調査内容についても取りまとめた。</p>																		
<p>県内に事業所を有する中小企業者向けアンケート 調査数 2,500 有効サンプル数 1,546</p>		<p>県内金融機関の融資担当者向けアンケート 調査数 848 有効サンプル数 696</p>																	
<p>中小企業の満足度</p>	<p>総合満足度62.7点(昨年度64.4点) 満足層 ⇒(大変・かなり・まあ)満足 中間層 ⇒普通 不満足層⇒(やや・かなり・大変)不満</p>	<p>個別項目満足度:経営支援関連項目を5項目に細分化し、14項目で比較 →経営支援に関する項目で低い(満足層で相対的に低い) (「新商品開発・技術研究開発支援」「販路開拓の支援」などが低い) 不満足層では、融資関連項目が低い傾向</p>																	
<p>資金調達の現状</p>	<p>謝絶経験割合13.4%(昨年度13.5%) 昨年度とほぼ変わらず。中小企業金融円滑化法施行以降、一定割合で推移。</p>																		
<p>経営把握の取組</p>	<table border="1" data-bbox="439 735 1854 842"> <tr> <td></td> <td>試算表</td> <td>資金繰り表</td> <td>事業計画書</td> <td>決算書</td> </tr> <tr> <td>作成状況</td> <td>7割</td> <td>約3分の1</td> <td>2割未満</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>自発的な提出状況</td> <td></td> <td>1割未満</td> <td></td> <td>2割未満</td> </tr> </table> <p>全て不作成が全体の3割。全体の2割が試算表作成の必要性を感じていない。 満足層と比べて、中間層・不満足層では、概して作成状況が悪い一方で、金融機関による適切な評価・対応も必要。</p>					試算表	資金繰り表	事業計画書	決算書	作成状況	7割	約3分の1	2割未満	—	自発的な提出状況		1割未満		2割未満
	試算表	資金繰り表	事業計画書	決算書															
作成状況	7割	約3分の1	2割未満	—															
自発的な提出状況		1割未満		2割未満															
<p>中小企業と金融機関の意識のギャップ</p>	<p>中小企業</p>	<p>質問</p>	<p>金融機関</p>																
	<p>重点的な説明 資金繰りに無理がないか</p>	<p>←説明する⇔説明してほしい→</p>	<p>自社の持つ強み・セールスポイント等</p>																
	<p>融資関連項目 不満足層で特に低い</p>	<p>←満足度⇔自己評価→</p>	<p>高評価</p>																
	<p>経営支援関連項目 満足層で他項目に比べて低い</p>	<p>←満足度⇔自己評価→</p>	<p>「新商品開発支援」、「販路開拓支援」などは低評価</p>																
<p>情報入手先・相談先</p>	<p>情報入手先……金融機関、商工会議所・商工会が8割以上。 分野別相談先…商工会議所・商工会が全分野で4割以上。その他、経営改善では税理士・公認会計士が2割以上。</p>																		
<p>業績別の企業行動</p>	<p>業績良好な企業は試算表等の作成割合が高い ⇒ 業績良好な企業は既に始めている「リレバンの実践」=①的確に現状把握をしながら②金融機関の求める情報を提供し③金融機関の前向きな対応を引き出す</p>																		
<p>目指すべき姿</p>	<p>中小企業 → 相互信頼関係構築 ← 金融機関 さらなる自社の経営状況把握へ ← さらなるリレバンの推進へ → 商工団体等との連携により金融と経営支援の一体的推進へ</p>																		